

事業名 CD	0104010201	健康増進事業（健康教育）
細分化した事業名		集団健康教育
事業担当課室 CD	200400	保健課
		整理コード*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり
	中項目	健康な暮らしを守る保健・医療の充実
	小項目	健康づくりの推進
関連する個別計画等	健康増進計画	根拠条例等 健康増進法
関連する事業	健康相談	

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	生活習慣病の予防及び介護を要する状態となることの予防その他健康に関する事項について、正しい知識の普及を図るとともに、適切な指導や支援を行うことにより「自らの健康は自らが守る」という認識と自覚を高め、健康の保持・増進に資する。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	64歳以下の全市民
これまでの改善経過	～20年3月 老人保健法に基づく健康教育事業として各種集団健康教室を実施 平成20年4月より、健康増進法に基づく健康教育事業となる。 特定健診・特定保健指導事業（ハイリスクアプローチ：検査結果に異常があり、それが幾つも重なっている人を対象とした生活改善の取り組み）の実施に伴い、ポピュレーションアプローチ（：血液等検査数値に異常が出ないよう、生活習慣の改善を目的とした予防活動）を重視した集団健康教育を実施し、仲間作りを重視した健康教室を開催している。
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 ■補助金 □その他（ 0 ） ・健康アップ教室実施 ・陸上ウォーキング教室の実施 ・水中運動教室への支援 ・総合健診結果報告会開催時の健康教育 ・要請があった団体に対しての教室開催（出前塾）
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	自分の健康を保つための健康行動がとれる 教室へ参加することにより、正しい生活習慣のあり方を身につけることができる

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		19年度	20年度	21年度	
A	事業費 (千円)		2,133	2,159	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金		510	504	
	市債				
	その他				
	一般財源				
B	担当職員数(非常勤 職員 E) (人)		0.37	0.28	
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)	0	2,556	1,910	
D	総事業費(A+C) (千円)		4,689	4,069	
*参考		H21)市民1人当りの事業コスト	127 円	H21)市民1人当りの行政サービス費用	579,596 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、19年度(6,901千円)、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)を使用しています。
 注3)一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			19年度	20年度	21年度
活動指標	健康教室年間開催回数	開催回数(回)	119	182	101
	集団健康教育参加者数	参加者数(人)	2,239	3,076	1,999
成果指標	健康アップ教室参加者の体重減少割合	10人/17人(体重減少者/教室参加者)		54.2%	54.50%
	健康アップ教室参加者の腹囲の減少割合	9人/17人(腹囲減少者/教室参加者)		74.3%	45.5%
効率指標	教室1回あたりのコスト	総事業費/開催回数(円) (4069千円/101回)	31,143	25,764	40,287円
	参加者1人あたりのコスト	総事業費/参加者数(円) (4069千円/1999人)	1,655	1,524	2,035円
	0	0			

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 市民のニーズに合わせ、各地区での健康教室の開催やWeb-においての支援がなされている		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 多くの市民に健康に関する情報提供や運動習慣・正しい食生活の知識が普及されている		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 年々新しい情報が出てきており、市民に伝えるための資料等もあるためコスト的には効率的である		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか) (1) 中長期的 生活習慣を改善し、市民がより質の高い生活が送れるよう支援する	(2)23年度 市民ひとりひとりが、健康づくりに意識をもち、自分にあった活動を始められるよう支援する。	(3)22年度 多くの市民に対し健康づくりについての知識の提供をおこなう
	21年度の改善計画 新しい概念であるメタボリックシンドロームについての知識の提供をおこなった		
	21年度の改善結果 多くの市民に新しい概念の提供ができた		
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 教室に参加し知識を得たものが地域のなかでリーダー的な役割を持ち活動していく			
課長所見	ハイリスク者と一般の市民に対し、目的と手法を明確にして効果的な健康づくりの推進を行なうこと		